

TAVI 中の左室ペーシングの陽極の接地位置の違いによるペーシング閾値と有効性・安全性を検討する後ろ向き観察研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究実施体制

済生会熊本病院（研究責任者） 循環器内科 鈴山 寛人

研究の目的と方法

心臓弁膜症の一つである重症大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療 (TAVI: 経皮的動脈弁留置術) において、ペースメーカーを用いた電気刺激で鼓動を一時的に速くすることにより、心臓の動きを一時的に止まったような状態にして、生体弁を安全に留置する方法が用いられます。このような方法を Rapid Pacing と呼びます。Rapid Pacing は左心室に挿入したワイヤーを用いて行い、陰極側はワイヤーの先端で、陽極側が電気の帰り道とイメージしてください。従来、皮下に刺した針に陽極を接地する方法が一般的ですが、右心室から上大静脈にかけて挿入したワイヤーに陽極を接地する方法もあります。後者の方法が針を余計に刺さずに済むため患者さんの負担が少ないこと、また、他により有効な Rapid Pacing に繋がるのが予想されています。しかし、2 つの方法の有効性や安全性の違いについての研究や報告はありません。今回2つの方法について、おもに Pacing の閾値 (最小の電気刺激量) について検討し、今後のより安全で有効な TAVI 治療につなげたいと考えます。

研究の対象となる方

2025 年 7 月～2026 年 1 月に当院で大動脈弁狭窄症に対し経皮的動脈弁留置術治療を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、既往歴、服薬情報、手術情報、ペーシング時の陽極の接地位置（皮下針と上大静脈内ワイヤー）、それぞれにおけるペーシング閾値、心電図検査、心エコー検査、合併症の有無、研究立案日までの予後など

（情報の使用開始予定日）2026 年 3 月 11 日

研究予定期間

2026 年 3 月 11 日～2027 年 3 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 循環器内科 鈴山寛人

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用・提供されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利

用・提供を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 循環器内科 鈴木 寛人 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
---------------	--